

令和8年3月31日

関係者各位

令和7年度学校評価・自己評価報告書

砧の学び舎

世田谷区立山野小学校

校長 小泉 一弘

【令和7年度重点目標】

- キャリア・未来デザイン教育の実現
- 教育 DX の推進
- 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進
- 地域社会と協働した教育の推進
- 「学校における働き方改革」の推進

【重点目標に対する自己評価】

教員一人一人が、授業改善に取り組み、身に付けた資質・能力を生かす問題解決的・探究的な学習過程で「主体的・対話的で深い学び」の充実を図ることができた。ICT の活用については、教員や児童のスキル、活用場面とツールの関係性などを授業改善の重要なポイントとしてとらえ、校内研修の場などにおいて効果的な活用方法を探っていく。学習中の環境設定に留意したり、学習展開をさらに工夫したりしていくことはもちろん、児童の人間関係をさらに豊かにしていくことにも注力していく必要があると考える。児童の自立、就労までを見据えて、他者とのかかわりを重視した指導を継続して行っていく。

「キャリア教育」については、日々の学習のほとんどすべては児童の将来につながるものであることを考えれば、特別に「これはキャリア教育だ」と意識させる必要はないと考える。しかし、今、学んでいることが自身の将来にどのように関係してくるのかを意識させることは大切であると考え。発達段階に応じて、学びの意義を児童が自覚できるように、粘り強く、着実にはたらきかけていく必要があると考える。

児童は概ね落ち着いた状況で生活できていると考える。しかし、日々の学校生活の中では、児童がルールを守れない、マナーを意識できないという状況が少なからず認められる。児童一人一人を的確に見とり、個に応じた指導を充実させていくためには、教員の生活指導力を向上させ、組織的に対応していく必要があると考える。研修等を通して教員の資質・能力を向上させること、学校に配置される様々な人材（スクールカウンセラー、インクルーシブ教育支援員、エデュケーションアシスタント、学校生活サポーター等）も活用しながら組織的対応を充実させることなどにより、児童の規範意識を高めていきたいと考える。教育活動全般を通して、人権尊重の精神を培い、偏見や差別、いじめを許さず、自他の良さを認め合い、尊重し合う人権教育を推進した。多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育も少しずつ手ごたえを感じている。

地域社会と協働した教育の推進では、次年度以降も生活科・総合的な学習の時間、社会科の時間を中心として、地域の人材を活用して授業を展開し、地域社会への帰属意識を高めていく。

教育の質の向上を目指す働き方改革については、一部教科担任制の導入、学年での交換授業、創造的余白の時間の創出のために会議の精選、ペーパーレスによる資源と時間の削減など様々な取組をしてきた。次年度以降も、教員が子どもたちのために費やす時間をできるだけ多く確保できるように、改革を推進していく。